

令和4年度第1回 豊能町人権問題審議会 議事概要

開催日時	令和4年10月31日（月） 午後2時00分～午後3時56分
開催場所	豊能町役場 大会議室
出席委員	有澤 知子 委員（会長） 木田 正裕 委員（副会長） 上野 智子 委員 長越 利秋 委員 新倉 英俊 委員 丸尾 裕美子 委員 相澤 由依 委員 川村 哲也 委員
欠席委員	なし
事務局	大西 隆樹（住民部長） 石井 慎子（住民部住民人権課長） 井上 直彦（住民部住民人権課課長補佐兼男女共同参画室長）
傍聴者	5名
次第	1. 開会 2. 委員紹介 3. 会長、副会長の選任について 4. 諮問 5. 案件 (1) 第3次豊能町男女共同参画プランの方向性について (2) 男女共同参画社会に関する意識調査について (3) 今後のスケジュールについて 6. その他
配付資料	資料1 豊能町人権問題審議会委員名簿 資料2 豊能町人権尊重のまちづくり条例 資料3 豊能町人権問題審議会規則 資料4 第3次豊能町男女共同参画プランの方向性について 資料5-① 住民意識調査の概要について 資料5-② 男女共同参画社会に関するアンケート調査（案） 資料6 第3次豊能町男女共同参画プラン策定スケジュール（案） 資料7 第2次豊能町男女共同参画プラン 資料8 男女共同参画社会に関するアンケート（平成23年11月実施）

議 事 の 経 過

発 言 者	発 言 の 内 容 等 (要 旨)
事 務 局	<p>1. 開会 机上配布による任命状交付の説明 会議成立の報告</p> <p>2. 委員紹介 委員 8 名及び事務局職員の紹介</p> <p>3. 会長・副会長の選任 会長に有澤委員、副会長に木田委員をそれぞれ選任</p> <p>4. 諮問 塩川豊能町長から有澤会長へ諮問</p> <p>傍聴希望者入場</p>
会 長	<p>案件 1「第 3 次豊能町男女共同参画プランの方向性」について説明を願う。</p>
事 務 局	<p>資料 4 及び資料 7 により説明</p> <p>1. プラン策定の趣旨・背景 第 3 次プランの策定に至る根拠法令や社会情勢の変化等について</p> <p>2. プランの位置づけ 法律や他の計画等と当プランの関連について</p> <p>3. プランの期間 今回策定するプランの計画期間を 10 年とすることについて</p> <p>4. 第 2 次プランにおける基本目標 前プランである第 2 次プランにおける 6 つの基本目標について</p> <p>5. プランの策定体制 人権問題審議会や意識調査の実施など、プラン策定に向けた体制について</p>
会 長	<p>質問や意見はあるか。 なければ、今後この方針に基づき審議を進めるものとする。 次に、案件 2「男女共同参画社会に関する意識調査」について説明を願う。</p>
事 務 局	<p>資料 5-①により意識調査の概要について説明</p> <p>第 3 次豊能町男女共同参画プラン策定の基礎資料として意識や課題の把握のため実施調査会社に業務委託し実施する。</p> <p>前回調査時との比較のため同内容の質問及び現状に合った質問を取り入れている。</p> <p>対象者は 18 歳以上の町内在住者から 2,500 人を年代別で無作為抽出 完全な無作為抽出にすると、絶対数が少ない若い世代からの回答が少ないことが想定され</p>

	<p>るため、前回調査の回収率を参考に、若い世代に多めに配分した年代別での無作為抽出とする。</p> <p>資料 5-②により調査票の案について説明 調査項目については次のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> 回答者の属性 男女平等に対する意識について 家庭生活に対する意識について 仕事に対する意識について 仕事、家庭や地域活動、プライベートの時間の関わり方について DV（ドメスティックバイオレンス）について 性暴力、性犯罪について 男女共同参画に関する用語の認知度について 男女共同参画社会の実現に向けて <p>合計で 38 問、回答はマークシート方式</p>
会 長	<p>「わからない」「どちらでもない」という選択肢を入れると回答がそこに流れる傾向がある。今回の調査は「わからない」「どちらでもない」という選択肢をなくした。選択肢の数も、回答しやすいよう 10 個までにした。</p> <p>質問や意見はあるか。</p>
委 員	<p>問 3 について、 住所が細かく分けられているが、人口が少ない地域では、回答者にとって、個人が特定されるという意識がはたらくのでは。前回のように「東地区」といったくくりでよいのでは。</p> <p>問 5 について、 ひとつの質問で、あなたと、あなたの配偶者・パートナーのそれぞれの職業を聞いているが、どのように回答するのか。</p>
事 務 局	<p>問 3 の区分は検討する。</p> <p>問 5 は回答欄（マークシート）で分かれている。</p>
委 員	<p>問 23 について、 性暴力・性犯罪は、男性から女性に対するものに限らず、女性から男性、同性同士でも対象になるのであれば、注釈を入れるべき。</p>
事 務 局	<p>注釈を追記する。</p>
会 長	<p>法律が変わり、性犯罪については、男性に対するものでも法律が適用されるようになっていたので、注釈がある方がよい。</p>

委員	<p>問1の性別を聞く質問について、 「男・女・その他」とあるが、自分がその立場であるとして考えると、その他という表現に違和感がある。「無回答」「答えたくない」などがよいのでは。</p>
事務局	<p>よい表現があれば提案いただきたい。</p>
委員	<p>その人自身が認識している性別、といった旨の表現がよい。 生物学的な性別か、自認している性別か、この調査はどちらで聞きたいのか、ということによる。</p>
委員	<p>体は男性・心は女性、体は女性・心は男性といった性同一性障害や、性スペクトラムなど、新しい性の捉え方もある。 昨今、各場面で、性別を問わないという方向性もあり、この質問は必要ないように思う。 この質問はいらない、という選択があってもよいのでは。</p>
会長	<p>男性であればどうか、女性であればどうか、といった意識の違いを知るためにこの質問はある方がよいと思う。 その他という表現でも悪くはないと思うが、人によりそれぞれ状況は異なるので、説明が必要になる。</p>
委員	<p>多様な性が存在して時代が変わってきていることを考えると、性別の枠を超えて、人間としてどう生きるか、という考えでアンケートをとることも必要かと思う。人間として、自分らしくどう生きるか、というアンケートになればよい。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランに係るアンケートでは性別に関する質問は省いている。 性別を必要としない場合は省けばよいが、今回の調査は、性暴力やセクシャルハラスメントなど、男性から女性に対するもの、女性から男性に対するものなどを聞くということを考えると、性別を聞く必要はあると考える。 その他という表現はあまりよくないと感じる。 生物学的な性別と自身の認識上の性別のどちらを優先するかというと、後者である。</p>
委員	<p>よりよい社会を目指すというのであれば、性別の枠を超えて、色々な方が生活しやすい世の中にしていく、という姿勢が必要。 質問の中に聞き慣れない言葉がある。前回のアンケートの際には言葉の説明があったが今回はない。 若い人は郵送よりもネットの方が回答しやすい。そういった方法も考えるべき。 このアンケートをなぜ実施するのかということが分かりにくい。問26にあるような、今後行政はどういったことに力を入れるのか、そのためにアンケートを実施する、といったことを記載すれば、目的が分かりやすくなり、なぜこんなプライバシーに関わることを聞かれるのかといった疑念が減り、協力を得やすくなるのでは。</p>

事務局	<p>表紙のアンケートの目的を修正する。</p> <p>昨今「多様性」といった表現が使われる一方で、「男女共同」というように、男・女と分かれている。</p> <p>風潮にそぐわないかも知れないが、男女の意識の差はつかみたいので性別の質問は残したい。戸籍上の性別でなく自身が認識する性別、とするにはどういった表現がよいか。</p>
委員	<p>前回のアンケートは男性・女性のみ。今回あえてその他を加えたのはなぜか。場合によって、その他は必要ないかも知れない。あえて定義しなければ、答える側が自身で判断し思っていることを書いてくれるかも知れない。答える側に任せるという方法もあるのでは。その上で、答えにくいのであれば無回答でもよいのでは。</p>
事務局	<p>昨今の情勢を踏まえてこのようにした。答えたくない、どちらでもないという方がいるのも事実である。</p> <p>選択肢の3を「その他」としたが、「無回答」として、戸籍上の性別に限らない、といった旨の文言を加えてはどうか。</p>
委員	<p>「無回答」と答えた方は、男性でも女性でもないと自認している人ではないかと考えられる。そういった方々の意見が出てくるのであれば意味があるのでは。</p>
会長	<p>「その他」より「無回答」がよい。</p> <p>男性の意識、女性の意識は聞きたいので、男性・女性はある方がよいが、男性・女性しかなければ、男性・女性のどちらでもないと自認している人は回答できない。そういう時に、そのまま何も答えないで終わるか、無回答としてでも答えてもらうかということになる。</p>
事務局	<p>選択肢は「男性・女性・無回答」の3つとし、「戸籍上の性別に限りません」という説明を加えるということでしょうか。</p>
会長	<p>それでよいのでは。</p>
委員	<p>そういった説明を加えるなら男性・女性のどちらでもないと自認している人も回答しやすい。その説明があれば「その他」でも問題ないようにも思う。戸籍上の性別に限らないということは、自認している性別を聞いているものととれる。</p>
委員	<p>選択肢を「無回答」とすると、男性と自認している人、女性と自認している人でも、答えたくないという人もいるかも知れない。そういった場合を含むことになり、ここでの無回答は性自認上のことに限らず広い意味になる。そう考えると、この質問自体がナンセンスと考えられる。</p> <p>他の質問では「わからない」という選択肢を省いたが、ここだけ「答えたくない」という選択肢を残してもよいのか、というようにも思う。</p>

事務局	<p>説明として「戸籍上の性別に限りません」といった文言を加え、選択肢は「男・女・無回答」とする。</p> <p>先ほどご意見をいただいた言葉の説明は追加する。</p> <p>ネットでの回答は、今回はできないが、今後、取り入れることを検討しなければならない。</p>
委員	<p>問 13 について、</p> <p>選択肢に「どちらともいえない」が残っているので省くように。</p>
事務局	<p>調査票の配布数について、20～30 歳代の比較的若い世代を前回の回収率を参考に多めに配分したが、これでもまだ少ないのではないかと感じる。予算の範囲内になるが、配布数をさらに増やしたいと考えている。</p>
会長	<p>どのような調査でも 20～30 歳代、中でも男性の回収率は低い。</p> <p>あまりに回収率が低いと意識調査として成立するののかという疑問もある。</p> <p>20～30 歳代を増やしてもよいと思う。</p> <p>→ 審議会後、20～30 歳代を中心に配布数を増やし総数を 3,000 人とする</p> <p>問 3 の地域の区分についても、人口が少ない地域もあるとのことなので、ここまで細かく分けて、まとめてよいと思う。</p>
事務局	<p>事務局で検討し区分をまとめる。</p> <p>→ 吉川・ときわ台をひとつ、東能勢の 8 地区をひとつとし、合計 6 つの区分とする</p>
委員	<p>問 21 について、</p> <p>夫や妻から、となっているが、事実婚や同棲もある。他の質問では、配偶者・パートナーとなっている箇所がある。</p>
事務局	<p>問 5、問 13-1、問 19 でも配偶者・パートナーとなっており、同様に修正する。</p>
委員	<p>問 6 について、</p> <p>「一世代夫婦」という表現に違和感がある。</p>
事務局	<p>「夫婦・パートナーのみの世帯」に修正する。</p>
委員	<p>3 ページの仕事に対する意識について、</p> <p>男女共同参画ということで、男性も女性も外で働いて欲しいという意識でこのプランができてきていると思うが、自分の意志で外では働かず主婦の仕事に専念する、という選択もある。主婦の家事労働の賃金換算はできていなくとも、外に出るだけが仕事ではない。外での仕事をしたくてもできない人もいれば、敢えて家庭の仕事を選択している人もいる。主婦の仕事は大変であるが誇りを持っている人は多い。そこは加味しないとイケない。</p>

<p>会 長</p>	<p>このアンケートは社会参加を前提としており、こういった人たちの存在を見過ごしているように感じる。</p> <p>「仕事に就かない方がよい」という選択肢が、専業主婦であり続けるということにあたるのでは。</p> <p>少子高齢化が進むと、年金制度なども成り立たなくなる。国の制度などを支えるためにも、女性が社会に出ることは必要である。主婦の仕事ももちろん大事であるが、こういったことを考えると、女性に外で仕事をしてもらうことも大事である。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>家族のために家事や育児を頑張りたい・頑張ってもらいたい、といった旨の選択肢を加えるべきか。</p>
<p>委 員</p>	<p>労働人口の問題、年金問題など、経済的な話が先行しているが、足元の家庭のことはどうなるのかと思う。</p> <p>家庭を守る人がいてこそ、という発想は古いかも知れないが、それで生活をしてきて後悔をしていない人が多いのは事実である。</p> <p>社会に出て個性を活かしたい、能力を活かしたいと考える人が多いとは思いますが、どう判断して、どちらを選ぶかは、個人の自由、個人の感性によるもので、それによってそれぞれの人生が作られるものである。</p> <p>この質問は、外で仕事をするを前提としている。する方がよい、といった表現ではなく、自身の意思で選ぶという主体性が見える書き方がよいのでは。人権問題を扱うこの会であればなおさら、人の意見や気持ちを汲むアンケートが必要と感じる。</p> <p>問 13 では、働かない理由として、出産・育児のため、介護・看護のため、など、後ろ向きのイメージ、マイナス思考になっている。出産・育児に専念したい、介護・看護に専念したい、といった表現が必要では。そうすれば、頑張っている人に寄り添っているように感じる。</p> <p>この質問の文章は、自分が家族を支えるとして頑張っている人を思うと、さみしい表現である。法律や経済のことだけでなく、家庭内での気持ち、生活を支えるとはどういうことなのかを考えなければならない。</p>
<p>委 員</p>	<p>問 11 について、</p> <p>男性も女性も答えるようになっているから、冷たい表現、主体性のない表現にとれるのでは。男性が答えるバージョンと女性が答えるバージョンで分けることができれば解決するのでは。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>確かに寄り添うイメージにはなっていないと感じる。</p> <p>文言について、いただいたご意見を踏まえ、会長と相談の上で整理する。</p> <p>取りまとめた調査票の最終案は配付前に情報提供する。</p>
<p>会 長</p>	<p>事務局と相談の上でまとめる。</p>

事務局	<p>次に、案件3「今後のスケジュール」について説明を願う。</p> <p>資料6により説明</p> <p>意識調査は11月中の発送、回収期限は12月中旬頃を予定</p> <p>回収後、調査会社で集計・分析</p> <p>第2回の審議会で結果報告</p> <p>→ 第2回審議会は令和5年2月27日(月)開催予定</p> <p>令和5年度は審議会を4回開催予定</p> <p>審議会における審議、パブリックコメントを経て、令和6年3月プラン策定予定</p>
会長	<p>他になければ、令和4年度第1回豊能町人権問題審議会を終了する。</p> <p>閉会</p>